



「できた、わかった、みんなでやりとげた。」

自他の成長が響き合う犀川中学校

校長

8月6日に寄せて

第2次世界大戦末期、1945年8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾が投下されました。その年内の死者数だけで推定140,000人、その後も、多くの方が原子爆弾の影響で命を落としています。そして、今日は2023年8月4日、原子爆弾の投下から78年の時間が流れようとしています。

生徒の皆さん、実感がありますか？原爆で亡くなった方に思いを寄せることができますか？死者数が推定でしかわからない(はっきりとはわからない)、その後も大きな後遺症を与えていく原子爆弾に恐怖を覚えますか？平和な世界を創らなければ、といった気持ちを高められますか？

これらの質問に胸を張って、「はい」と答えることができる人は少ないのではないのでしょうか。私も、正直なところ自信はありません。それはなぜ？それは、78年という時間の経過のためです。あまりにも過去のことのようで、あまりにも遠い世界のことのようで、……。自分との関わりで考えることが難しいからです。

しかし、だからこそ、1年に1回確実に訪れる明後日の「この日(8月6日)」、先のような質問内容を自問自答する必要があるのではないのでしょうか？

(2、3年生の皆さんには、昨年同様のお話ですが、……。)

私は、大学時代(今から約40年前)広島で大学生活を送りました。その時、友人の家が建て替えられることになりました。その友人の話によると、基礎工事をしていたらグニャグニャとした鉄の塊(かたまり)が出てきたそうです(現物を見せてもらいました)。工事をしていた人は、「広島では、珍しくない。(原爆で街が焼け野原になってから)土の皮一枚かぶっているだけだから。」と言っていたそうです。その話を聴いて、私は大きな衝撃を受けたのをつい先日のことのように覚えています。「40年の時間(1985年当時)は、土の皮一枚」。私が今立っているこの土のすぐ下には、原爆の悲しい歴史が眠っている……。

人間一人の命の長さからすれば、確かに78年という時間は長い。しかし、代々続いていく命の長さからすれば、言わば、地球の歴史からすれば、78年なんて、ほんのわずかな時間。そのほんのわずかな時間しか経過していないはずなのに、今を生きる私たちは、一瞬にして失われた膨大な命、治療の方法がない後遺症、原子爆弾の恐怖、それらを忘れかけています。

それに、原子爆弾の被害は今なお続いています。原爆後の「黒い雨(原爆後に降った放射能を含む雨)」に打たれただけで、二次的な被爆者となり、今なおその後遺症に苦しんでいる方がいるのです。

今日は、しっかりと原子爆弾の恐怖、胸に刻んで下さい。さらには、自分も世界の平和を創るひとりであることを自覚して下さい。

ところで、2022年2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻。早1年と半年が過ぎようとする今でも、終息の気配はありません。それどころか「核兵器使用」までもが懸念される事態となっています。

こういった状況の中、今年5月、「フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダの7か国とEU(欧州連合)」各国の首脳が被爆の実相に触れ平和への思いを共有すること、さらには「核兵器のない世界」を実現することを一番のねらいとして「G7広島サミット」が開催されました。

しかしながら、今なお続くロシアのウクライナ侵攻、……。

世界平和というと、なんだか大きすぎて、「私ひとりでどうすることもできない。」と思う人もいるかもしれませんが、決してそうではありません。

人間は、「微力ではあっても無力ではない」のです。「平和を望む私ひとり」が多くなることで、平和は実現していくのです。

そして、世界平和の基調は、「多様性、価値観の違い」の理解に他ならないからです。それは、日々の生活で試されています。差別や偏見は、「自分と違う考え方や個性」を受け入れようとしないことから生まれてきます。そのような自分はいませんか？自分と同じように他者を愛して下さい。

最後に、宮沢賢治さん(日本を代表する詩人、童話作家)の言葉をご紹介します。

世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない。

消えた八月

作詞 栄谷 温子

作曲 黒沢 吉徳

熱い光の中で 僕は一枚の絵になった
熱い風の中で 君はひとつの石像になった
光に打たれて 僕は壁にとけた
風に吹かれて 君は大地に消えた

僕の好きな八月は 蝉と向日葵(ひまわり)の夏
君の好きな八月は 銀河の下(もと) 星祭り

しかしすべては消えた
熱い風と毒された空気の中で
血の一滴すら流すことなく
僕は影になった 君は物になった
故郷(ふるさと)に 黒い雨が降る

熱い光の中で 僕は一枚の絵になった
熱い風の中で 君はひとつの石像になった



原子爆弾の閃光を浴び、身体は気化し、影だけ残った。階段の「付着物」として残った。
そこに人がいた。その直前まで確かに生きていた。
そして、一瞬にして消えた。

【人影の石】